



開物成務

郡山市立開成小学校

学校便り No.45

平成31年2月25日

文責：校長 伊藤孝行

甲状腺検査を行いました。

(福島県HPより)チェルノブイリ原発事故後に明らかになった放射線による健康被害として、放射性ヨウ素の内部被ばくによる小児の甲状腺がんが報告されています。

福島県の原発事故では、チェルノブイリに比べて放射性ヨウ素の被ばく線量が低く、放射線の影響は考えにくいとされていますが、子どもたちの甲状腺の状態を把握し、健康を長期に見守ることを目的に甲状腺検査を実施しています。



本日、福島県で実施している甲状腺検査を行いました。定期的に検査を受けることで、健康状態をチェックすることができますし、心配な点があったら早期に専門的な診断へとつなげることができます。

子供を叱るときのNG5つ

明治大学教授に諸富祥彦さんは、心理学が専門でカウンセラーもされ、教育関係の著書も多数ある先生です。

諸富先生の著書の中に、子どもを叱るときに親が注意しなければならない5つのことが書かれていたので紹介します。

- ① 大声を張り上げない
- ② 感情的にならない
- ③ 体罰でわからせようとする
- ④ 理由を伝えずに叱らない
- ⑤ 時間がたってから叱らない

怒るのは感情ですが、叱るのは教育です。怒りの感情を込めてしまうと、子どもは「自

分は嫌われている・親に憎まれている」「自分は愛されていない」と思い込んでしまいます。



また、親に叩かれて育った子どもは、友達を叩くことへの抵抗が少なく、トラブルを暴力で解決しようとする傾向があります。

さらに、自己肯定感が低くなると「どうせ、ぼくなんか・・・」となり、「頑張ろう」「きちんとしよう」という積極的な気持ちは起こらなくなります。

私自身も子どもの頃、父親から理不尽なことから大声で怒鳴られ叩かれた経験があります。その結果、父親へは恐怖と嫌悪感、恨みの感情が残ったものの行動の改善につながったとは思えません。

根底に、子どものことを考え、子どもを良くしようとして「叱る」ことは通じます。逆に、自分の感情や不満のはけ口として、子どもを「怒る」と通じません。

難しいこととは思いますが、子どもの悪い行動や習慣を目にしたとき、「叱ろうとしているのか」「感情的な怒り」なのか、一瞬でも考えてみると、子どもに伝わる「叱り」ができるかもしれません。

今朝、白鳥の北帰行を見送りました。



今朝、交通指導をしているとき、校庭上空を数羽の白鳥が北に向かって飛んでいるのを見つけ、近くにいた子どもと一緒に見送りました。季節が確実に春に向かって動いているのを感じることができた時間でした。